取扱説明書

保管用

# 日立蛍光灯器具

## Hf86ハイパワーシリーズ・埋込形

HTM11220VHA-PKU24

HITACHI
Inspire the Next

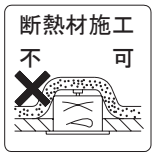
●初期照度補正機能付照明器具　●電源は200～242Vまで対応

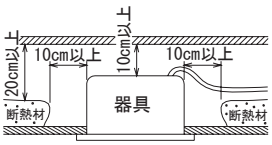
■器具の取付工事には電気工事士の資格が必要です。（施工は必ず電気工事店（有資格者）に依頼してください。）

**施工説明**　**工事店様へ・・・この取扱説明書は保守のためお客様に必ずお渡しください。**

## ⚠警告　安全に関するご注意

■取付工事は「取り付けかた」にしたがい確実に行ってください。
取付工事に不備がありますと、火災・感電・落下の原因となります。
■断熱材・防音材をかぶせて使用しないでください。
（右図の空間を確保してください）火災の原因となります。
■天井埋め込み専用ですので壁取り付けや天井取り付および、傾斜天井への取り付けはしないでください。火災・感電・落下の原因となります。
■表示された電源電圧（定格電圧±６％）以外の電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。
■器具を改造しないでください。火災・感電・落下の原因となります。



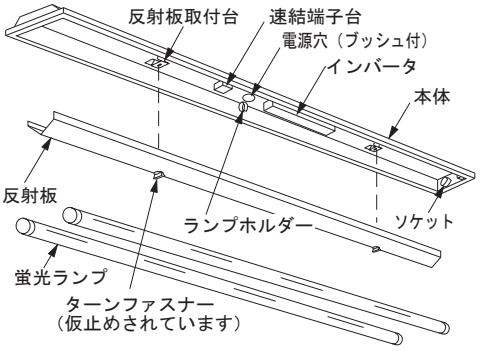




## ⚠注意

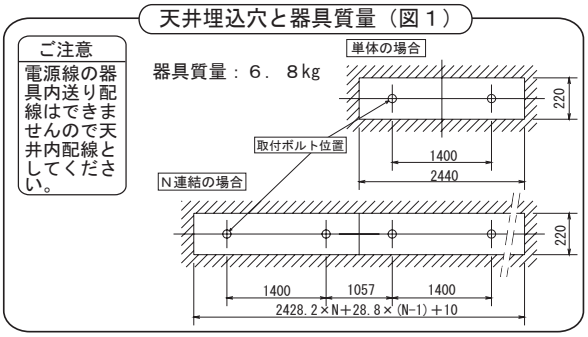
■一般屋内用照明器具です。直射日光のあたる場所・湿気の多い場所・振動のある場所・雨の吹き込みを受ける場所・腐食性ガスの発生する場所・風などが直接あたる場所では使用しないでください。火災・感電・落下の原因となります。
■アンモニアなどのアルカリ性雰囲気・切削油などの油煙のある場所・有機溶剤や洗剤の原液などのかかるおそれのある場所では使用しないでください。火災・感電・落下の原因となります。
■ホタルスイッチと組み合わせて使用する場合、手動リセットが動作しない場合があります。
ホタルスイッチは２箇所までとしてください。
■周囲温度は５～３５℃以外では使用しないでください。火災の原因となります。
■絶縁抵抗試験は必ず５００Ｖ以下の絶縁抵抗計を用いてください。保護機能が作動し不点灯の原因となります。

## 各部の名前と取り付けかた

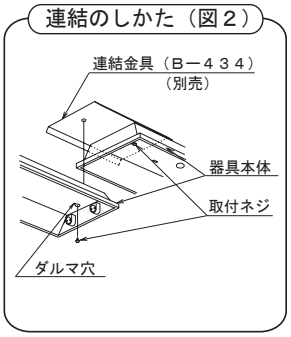
図は取り扱いを説明するため一部省略抽象化した図です。




天井埋込穴と器具質量（図１）



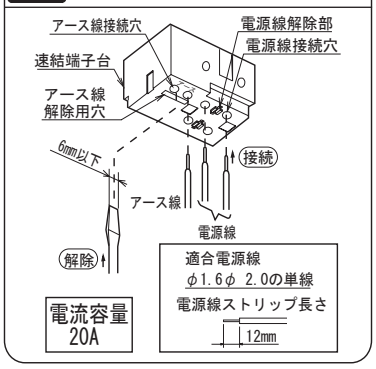

連結のしかた（図２）



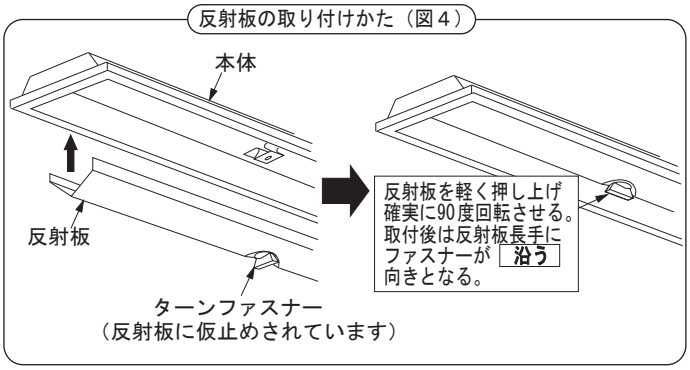

１、ターンファスナーを９０度回転させて、本体から反射板を取りはずす。
２、天井埋込穴（図１）により、あらかじめ天井に埋込穴をあける。埋込穴の周りに野縁を組み補強する。取付ボルトは器具質量（図１）に十分耐える強度を確保する。
３、本体の電源穴（ブッシュ付）から、電源線・アース線を引き込む。他の電源穴を使用する場合はブッシュを付けかえてください。
４、取付ボルトに本体を確実に取り付ける。
取り付けに不備がありますと器具の落下の原因となります。
●取付ボルトの出代は本体内２５㎜以下にする。
取付ボルトが出すぎると反射板が取り付けられなくなります。
●連結で使用する場合は、本体を別売の連結金具（B-４３４）で連結する。（図２）
５、電源線・アース線を速結端子台に接続する。（図３）
（１）電源線・アース線を指定の長さにストリップし、接続穴にしっかりと差し込む。
差し込みが不十分ですと火災・感電の原因となります。
（２）電源線・アース線は速結端子台に接続後、反射板に当たらないように処理する。
●アースはアース線接続穴を使用しＤ種接地工事を行う。
●解除する場合は、径または幅６㎜以下のドライバーで解除部を押し電源線をはずす。
アース線は幅６㎜以下のマイナスドライバーを解除用穴に挿入してはずす。
６、反射板はランプホルダーをまき込まないように注意し、裏面（図４）にしたがい確実に取り付ける。取り付けに不備がありますと反射板の落下の原因となります。
７、蛍光ランプを取り付ける。{裏面（図５）}
取り付けに不備がありますと蛍光ランプの落下・破損・不点灯の原因となります。
（１）蛍光ランプの中央部（ランプホルダーの近く）を持ち、ソケットおよびランプホルダーに確実に取り付ける。
（２）蛍光ランプの取り付け後、蛍光ランプをソケット方向に軽くゆすり、ソケットに確実に装着されているか確認する。
●取り付けの際は、ランプホルダーで蛍光ランプを強くはじかないようにする。
８、工事完了時に器具が確実に取り付いているか、また蛍光ランプが正常に点灯するか確認する。

速結端子台の接続と解除（図３）

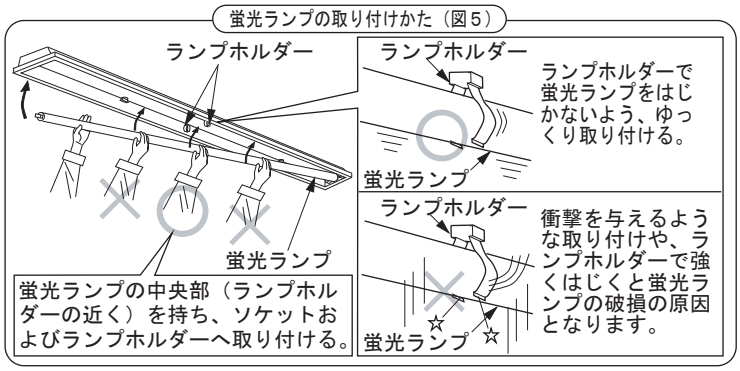
⚠注意 ●火災・感電のおそれあり 確実に接続すること



反射板の取り付けかた（図４）




蛍光ランプの取り付けかた（図５）




## 取扱説明　お客様へ・・・この取扱説明書は必ず保管してください。

■このたびは日立照明器具をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
この取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくご使用ください。

# 安全に関するご注意

## ⚠警告

■器具を改造しないでください。火災・感電・落下の原因となります。
■器具のすきまや放熱穴に、金属類を差し込まないでください。火災・感電の原因となります。
■器具やランプを布や紙など燃えやすいもので覆ったり、かぶせたりして使用しないでください。
火災の原因となります。
■煙がでたり異臭がしたら、すぐに電源スイッチを切ってください。火災・感電の原因となります。
■ランプ交換やお手入れは、取扱説明書により確実に行ってください。火災・感電・落下の原因となります。

## ⚠注意

■器具の近くで温度の高くなるもの（ストーブ・ガスレンジ等）を使用したり、近くに燃えやすいものを置かないでください。火災の原因となります。
■ランプ交換の際には、本体表示および、取扱説明書にしたがって指定されたランプを使用してください。指定以外のランプを使用すると、火災・不点灯・絶縁不良の原因となります。
■ランプだけを器具から取りはずしての間引き点灯はしないでください。火災・短寿命・絶縁不良の原因となります。
■明るく安全に使用していただくために、定期的に清掃・点検をしてください。不具合がありましたら、そのまま使用しないで工事店・電器店に修理を依頼してください。
■３～５年に１回は電気工事店等の専門家による点検を実施していただき、不具合がありましたら交換してください。
■照明器具には寿命があります。使用条件・使用環境で異なりますが、８～１０年が交換の目安です。

| 使用上のご注意 | ■電波の弱い場所（山間・鉄筋建物等）では、ラジオや室内アンテナ使用のテレビに影響することがあります。<br>■器具の近くで赤外線リモコン方式のテレビなどを使用するのは、お避けください。<br>リモコンを操作しても動作しないことがあります。<br>■器具の近くでワイヤレスマイクの使用は、お避けください。雑音が入り正常に動作しないことがあります。 |
|---|---|

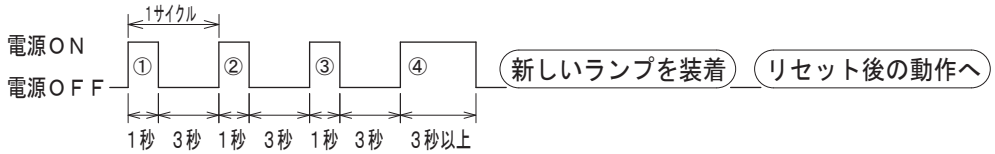
# 初期照度補正機能付照明器具使用上のご注意

初期照度補正機能とはランプ初期の余分な明るさを自動補正する機能です。
一般的に新しいランプは設計照度より３０％程明るくなります。初期照度補正機能とは、ランプが新しい時の明るさを抑え、設計照度（ランプ初期時の約７０％の光束）を保つように、器具ごとに明るさを自動補正する機能です。
本器具には累積点灯時間を記憶するタイマーを内蔵しており、新しいランプに交換した場合は次の操作が必要となります。

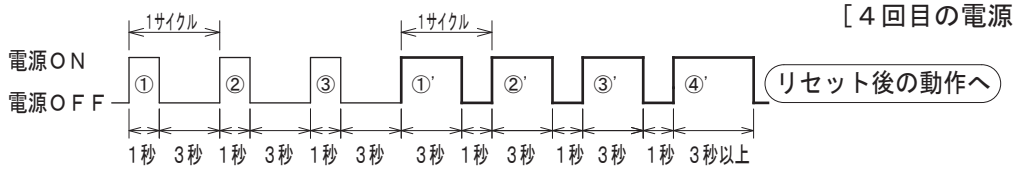
●ランプを寿命末期まで使用の場合
寿命を検出し（間欠発振後、発振停止となります）、ランプを消灯して自動的にリセットします。ランプ交換後は、ランプの明るさが初期照度補正状態に戻ります。

●ランプを寿命末期前に交換する場合（手動でのリセット操作が必要です。）
ランプ寿命前に新しいランプと交換する場合には、自動リセットが動作しないため、手動でのリセット操作が必要となります。

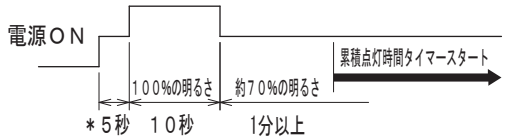
［個別にランプ交換を行う時のリセット操作（その器具だけをリセットする場合）］
１．ランプを取り外す
２．電源ＯＮ（１秒）、ＯＦＦ（３秒）の操作を４回繰り返す［４回目の電源ＯＮは３秒以上］
３．新しいランプを取り付ける



［一斉にランプ交換を行う時のリセット操作（全ての器具を一斉にリセットする場合）］
（全ての器具のランプを新しいランプに交換後、一括でリセット操作を行います。）
１．ランプを取り外す
２．新しいランプを取り付ける
３．電源ＯＮ（１秒）、ＯＦＦ（３秒）を３回繰り返し、続けてＯＮ（３秒）、ＯＦＦ（１秒）を４回繰り返す
［４回目の電源ＯＮは３秒以上］




［リセット後の動作（約１５秒間は１００％の明るさで点灯します）］

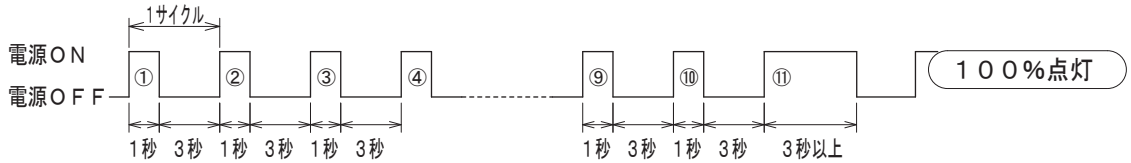



＊点灯直後の明るさは約７０～１００％です。

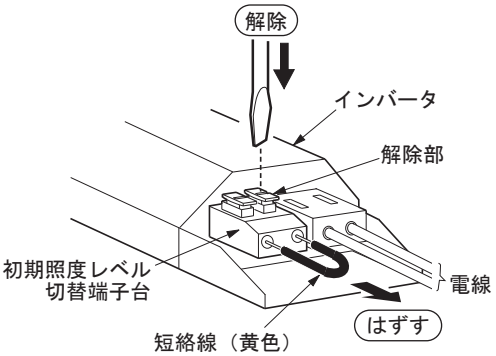
●リセット操作が完了しますと、点灯１５秒後に約７０％の明るさに変化します。
●リセット後の動作では、約７０％の明るさに変化後１分間以上点灯させたままにしてください。
初期照度補正機能の累積点灯時間タイマーがスタートしません。
●リセット操作後、最初の点灯で左図の様に明るさが変化しない場合は、リセットが正しく行われていません。再度リセット操作を行ってください。
２回目以降は照度補正された明るさで点灯します。

●その他の機能

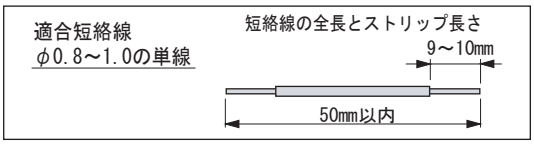
［初期照度補正機能を解除する（１００％点灯にする）］
（この操作をすると、初期照度補正機能で記憶していた累積点灯時間がクリアされますので、ご注意ください。）
１．ランプを取り付ける
２．電源ＯＮ（１秒）、ＯＦＦ（３秒）を１１回繰り返す［１１回目の電源ＯＮは３秒以上］




［初期照度補正時の明るさを約８０％にする］
工場出荷時の初期照度補正は約７０％の明るさ（短絡線を接続した状態）に設定されていますが、約８０％の明るさとする機能も付加してます。約８０％の明るさで使用する場合は、マイナスドライバー等でインバータの初期照度レベル切替端子台の解除部を押し、短絡線をはずしてください。




＊再度約７０％の明るさに戻す場合は、下図の適合短絡線を初期照度レベル切替端子台に接続してください。




## ⚠ 警告

●作業の際は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。火災・感電の原因となります。
●短絡線以外の電線は絶対にはずさないでください。火災・感電・不点灯の原因となります。

| | |
|---|---|
| その他のご注意 | ●２灯用器具の場合、ランプは２本同時に新しいものと交換してください。<br>●器具・ランプの汚れに対する補正はできません。定期的な清掃をお勧めします。<br>●蛍光ランプの明るさは点灯時間の経過につれて徐々に低下します。２００００時間程度で交換して頂くのが明るさ維持の目安です。<br>●ホタルスイッチと組み合わせて使用する場合、手動リセットが動作しない場合があります。ホタルスイッチは２箇所までとしてください。 |

2010.10 KTA16721 R1

## お手入れ・ランプ交換

必ず電源を切ってから行ってください。感電・やけどの原因となります。

●ランプの口金付近が黒ずみますとランプの寿命です。そのままご使用をつづけますと明るさが落ちるだけでなく、器具の寿命も低下させますので、新しいランプとお取り替えください。

| | | |
|---|---|---|
| 禁止 | みがき粉・ベンジンなどでふいたり殺虫剤をかけないでください。<br>また器具の水および洗剤での丸洗いは、絶対にお避けください。<br>傷つき・変形・変色・サビの原因となります。 | 点灯中や消灯直後は、ランプが高温となっていますので手を触れないでください。<br>やけどの原因となります。 |

| | | |
|---|---|---|
| 必ずしてください | ランプがほこりなどで汚れますと、明るさが低下します。<br>汚れが目立ちはじめましたら器具よりランプをはずし、きれいな布をせっけん水に浸してよく絞ってからふきとり、さらに乾いた布でふいて仕上げてください。<br>化学ぞうきんを使用する場合は、その注意書にしたがってください。 | お手入れなどでランプをはずし、再度取り付ける場合は、左記「蛍光ランプの取り付けかた」にしたがい、ランプを確実に取り付けてください。取り付けに不備がありますと、落下してけが・物損の原因となります。 |
| | ランプ交換の際には右のマークが表示された高周波点灯専用ランプ（ハイパワーHfランプ）を必ずご使用ください。指定以外のランプを使用すると、火災・器具の破損の原因となります。<br>交換ランプ　高周波点灯専用ランプ（ハイパワーＨｆランプ）　FHF86-HPV | Hf HPV |

| | |
|---|---|
| 保証について | ●照明器具の保証期間は、商品お買上げ日より１年間です。但し、電子安定器は３年間です。<br>●ランプなどの消耗品は対象外とさせていただきます。<br>●保証期間を過ぎているときは、お買い上げの販売店（工事店）にご相談ください。<br>修理によって機能が維持できる場合は、ご希望により有料修理させていただきます。 |

アフターサービス・・・ご使用中、器具に異常が生じた場合は直ちに使用を中止し、電気工事店または下記のところに、器具の形式・故障状況を連絡のうえ修理を依頼してください。

日立アプライアンス株式会社

〒105-8410　東京都港区西新橋2-15-12　電話(03)3502-2111

2010.10 KTA16721 R1